

新バスケの街のしろ推進計画（現行計画）の取組状況

【基礎資料1】

※実施状況：◎実施済 ○一部実施済 △検討中 ×未実施

基本姿勢	取組の柱	施策	事業	内容	実施状況	取組状況・検討状況・未実施理由等
みんなのチカラで“きらりと光る”バスケの街	1 みんなが参加するバスケの街をめざします。	1 自主的 市民参加の促進	①「バスケの日」の制定	バスケの街づくりへの市民参加を促進していくため、「バスケの日」の制定をすすめます。	△	計画策定後、「バスケの街のしろ推進懇談会」の中で制定に向けて検討を進めましたが、実施主体や財源などが課題となり、具体化に至らなかった経緯があります。 バスケットボール誕生の日（12月21日）を「バスケットボールの日」にしようとする動きが国内にあるほか、能代工業高校バスケットボール部が昭和42年の埼玉国体で初めて全国優勝した10月26日を記念日にすることも考えられます。
			②（仮称）バスケの街づくりボランティアの推進	ボランティアを必要とする分野と参加意欲のある人を結ぶネットワークづくりなど、バスケの街づくりボランティアとして参加しやすい体制づくりをすすめます。	○	ボランティアのネットワーク化には至っていませんが、「能代カップ高校選抜バスケットボール大会」では、会場整理等の一般ボランティアを公募しており、誰でもボランティア参加できる体制としています。また、高校生ボランティアも参加しています。
		2 交流機 会の拡 大、促進	③バスケを活用した交流の促進	バスケットボールを活用して、市内外とのスポーツの交流や地域間の交流を促進するほか、能代工業高校バスケットボール部OBなどとの交流機会の拡大やネットワークづくりをすすめます。	○	「能代カップミニバスケットボール交流大会」では、市内外のチームが参加し、交流が図られています。 「アリナス杯バスケットボール交流大会」前日に開催される研修会には、「秋田・岩手北部地域市長ネットワーク」参加市の中学生にも呼びかけし、スポーツ交流を行っています。 また、市では、能代工業高校バスケットボール部OBの職員採用実績があり、関係者の窓口的な役割も担っています。
			④バスケの街づくりへの意見・提言の募集	市民と行政が連携したバスケの街のしろの推進をめざし、定期的に市民の意識調査やニーズの把握を行います。	◎	毎年実施している市民意識調査の中に、バスケの街づくりに関する項目を設けて、市民意識の動向を把握するようにしています。 また、今回の計画の見直しにあたり、関係団体等の実態調査、市民からの意見・提言の募集を行っています。
	2 小、中、高校、一般のいずれもバスケが盛んな街をめざします。	1 競技人口の拡大	⑤バスケの普及、強化	地域の特色あるスポーツとして、小学生から一般までそれぞれのステージのバスケットボール愛好者の拡大を促進するほか、小学校でのミニバスチームの設置をすすめます。また、平成19年の国体に向けて競技力の向上をめざします。	◎	「教育長杯ミニバスケットボール交流大会」では、競技力の高いチームだけでなく、広く参加できるようにすることで、底辺の拡大を図っています。 バスケットボール協会主催の「熟年パワーバスケットボール大会」ではリーグを設け、「クリスマスバスケットボール大会」ではミニバス、中学生、一般の試合をそれぞれ行っており、市ではこうした大会への助成を行っています。 また、「バスケサポーターズのしろ」では、バスケットボール愛好者の拡大と健康づくりの意識向上を図るため、「健康フリースロー大会」を開催しています。 小学校のミニバスチームは、平成22年度では、男女各14チーム、計28チームとなっています。 19年に開催された秋田わか杉国体では、少年男子の秋田県チームである能代工業高校バスケットボール部が、9年ぶり15回目の優勝を飾っています。

基本姿勢	取組の柱	施策	事業	内容	実施状況	取組状況・検討状況・未実施理由等
			⑥公園リング等の維持管理	「いつでも、どこでも、誰でもバスケットができるまち」をめざして、児童公園等に設置したミニバスリング等の補修及びボールの設置について、計画的な維持管理を行います。	◎	施設の見回りや遊具点検の際のリングの点検のほか、各自治会の協力を得ながら、不具合のあるものについては、その都度修繕を行っています。 (ただし、支柱の腐食により倒壊の危険性が高いものについては、残品を再利用することとし、撤去しています。)
		2 競技力の向上	⑦バスケットボール教室等の開催	バスケットの街の底辺拡大や秋田国体に向け、競技力の向上をめざすため定期的なバスケットボール教室や各種イベント、大会等の開催を促進します。	◎	バスケットボール教室等について、従来の開催の仕方を改め、平成18年度からは、より多くの競技者を対象としたクリニックとして、「NOSHIROバスケットボールフェスタ」を立ち上げ、継続しています。 18年度は、JBL日立のヘッドコーチ小野秀二氏を招へいし、国体前イベントとして、県と共催でクリニックを行いました。
		3 指導者の育成	⑧指導者、審判員の育成	バスケットの普及、競技力の向上を側面から支える指導者や審判員の育成などを促進します。	◎	指導者育成の視点も取り入れて、「NOSHIROバスケットボールフェスタ」を継続して開催しています。 また、平成22年度には、新たな試みとして、能代工業高校バスケットボール部の佐藤信長監督を講師に、ミニバス及び中学校バスケットボール部の指導者等を対象に、「バスケットボール指導者研修会」を開催しました。 審判員の育成については、バスケットボール協会が主導で行っています。
	3 ハイレベルのイベント開催など、より注目されるバスケットの街をめざします。	1 バスケットの観戦機会の提供	⑨JBL公式戦の招致	競技面におけるバスケットの普及にとどまらず、見るバスケットの普及をめざすためにも、JBL公式戦の開催など国内トップレベルのバスケットの観戦機会の拡大に向けた取り組みをすすめます。	◎	平成15・16・17年度に、JBLを招致しました。 22年度には、WJBLを招致しました。 また、22年度は、bjリーグの秋田ノーザンハピネッツホームゲームが開催され、23年度以降も開催される見込みです。 いずれも、市が開催費を助成することにより支援しています。
			⑩能代カップへの支援	能代市の知名度アップやバスケットボールの底辺拡大のため、能代カップ高校選抜バスケットボール大会の開催に対して支援し、バスケットボールを通じた感動を市民に提供します。	◎	バスケットボール協会主催の「能代カップ高校選抜バスケットボール大会」の開催について、運営費の助成、開催会場としての協力及びボランティアスタッフとしての参加により、支援を行っています。
		2 スポーツ合宿の誘致の促進	⑪スポーツ合宿等の誘致活動の充実	能代山本スポーツリゾートセンター「アリナス」などを利用した、実業団をはじめとする各種合宿等の誘致の促進など、PR活動の充実に努めます。	○	アリナスでは、過去に合宿で施設を利用した団体に対して、年間予約希望を募る際にPRを図っています。 また、各宿泊室にアンケート用紙を置き、宿泊者の生の声を施設運営に反映するようにしています。 市では、能代工業高校生徒会主催の「みんなのバスケット」の縁で、車椅子バスケットボール日本代表の強化合宿を誘致しています。 今後、アリナスをはじめとして更なる合宿誘致の可能性を探るため、先進地視察を行うほか、県外の高等学校等への呼びかけ・PRを検討したいと考えています。

※実施状況：◎実施済 ○一部実施済 △検討中 ×未実施

基本姿勢	取組の柱	施策	事業	内容	実施状況	取組状況・検討状況・未実施理由等
	4バスケの街のPR・イメージづくりをすすめます。	1バスケの街のアピールの促進	⑫市民へのバスケの街の啓発	バスケの街づくりの取り組みやバスケに関連した情報などを積極的に提供し、バスケの街のしらの意識やイメージの定着に努めます。	◎	市の広報紙の中で、できるだけバスケに関する情報を伝えていくよう努めています。 また、市のホームページに「バスケの街」のページを設けることで、市独自の情報発信に努めています。 平成22年度には、市の若手職員のチームが制作したバスケ動画の配信を行っています。
			⑬対外的なバスケの街のPR	市民と行政が一体となってバスケの街をPRしていくための手法や連携体制について検討をすすめ、実効性のあるPRに努めます。 当市の特色ある木のまちづくりなど各種施策と合わせたPRを図ります。	○	市では、「能代カップ高校選抜バスケットボール大会」に合わせてのぼり旗を掲げるなど、バスケの街のPRに努めています。 また、同大会出場の記念品として、選手・スタッフに木製はがきを贈っています。 JR東日本の「リゾートしらかみ」では、能代駅停車中にフリースローを行い、シュートが入った人に記念品を贈るなど、バスケの街のPRが行われています。
			⑭バスケの街の情報発信の充実	インターネット等を活用したバスケの街のしらの情報発信のあり方や市民、民間団体、民間企業等と連携した情報発信の手法等について検討をすすめ、情報発信の充実をめざします。	○	市のホームページに「バスケの街」のページを設けることで、市独自の情報発信に努めています。 平成22年度には、市の若手職員のチームが制作したバスケ動画の配信を行っています。 また、「能代カップ高校選抜バスケットボール大会」の戦況報告がインターネットを通じて配信されているほか、インターネットを活用したグッズ販売も行われています。
		2バスケの街のイメージの促進	⑮バスケの街の特産品の開発・販売促進	バスケの街の知名度を活用した、民間主導による特産品や土産品の開発、販売を促進します。	○	商標登録があり商品化されているものとしては、Tシャツ、タオル、ストラップ等のほか、洋菓子やミネラルウォーターがあります。
			⑯バスケの街のシンボル	バスケの街にふさわしいイメージキャラクターの採用やバスケットロードなどバスケの街をイメージできるシンボルづくりを促進します。また、民間企業等におけるバスケを活用した壁画等によるPRを奨励します。	○	能代ポイントカード事業協同組合のキャラクターである「ダンクくん」が、ポイントカードのイメージキャラクターの枠を超えて使用されてきています。 また、中心市街地の活性化を図るため、平成22年度から畠町商店街の中に市役所の中心市街地活性化室の事務所を設けており、バスケの街のイメージづくりにも取り組んでいます。 中心市街地活性化の一環として、畠町商店街振興組合及び柳町女性会では、バスケ関連のシャッターアートとして、21年度に6店舗、22年度に2店舗に描画しています。

※実施状況：◎実施済 ○一部実施済 △検討中 ×未実施

基本 姿勢	取組の柱	施策	事業	内容	実施 状況	取組状況・検討状況・未実施理由等
	5 民間と行政が連携した組織・体制づくりをすすめます。	1 市民と行政の連携体制の強化	⑰（仮称）バスケの街づくり市民会議の設置	市民と行政のパートナーシップにより、バスケの街づくりを推進していくため、市民、民間団体、民間企業、行政などが一体となって取り組みをすすめるための組織づくりを促進します。	◎	幅広い市民参画を図り、市民と行政が協働してバスケの街づくりを推進する組織として、平成21年度に「バスケサポーターズのしろ」を立ち上げました。 また、新たな計画策定のために、「能代市バスケの街づくり推進会議」を23年度に設置して協議を進めます。 この会議では、計画策定後も、定期的に計画の進み具合を点検していく予定です。
			⑱各種スポーツ団体との連携強化	バスケを核とした街づくりに対して、各種スポーツ団体の理解の促進を図るほか、スポーツ団体間の連携の強化を促進します。	○	各種団体が加盟している体育協会に対して、バスケの街づくりを基としたスポーツのまちづくりの意義の理解を図るとともに、各種スポーツ振興事業の委託等を通して、各競技団体との連絡調整に努めています。
		2 バスケの街の推進体制の強化	⑲市の体制強化	バスケの街づくりの取り組みを強化するため、専任の担当者を配置します。 また、全庁体制で取り組むための横断的な庁内検討組織を設置します。	○	専任ではありませんが、企画部にバスケの街づくりを担当する職員を配置しています。 また、職員採用試験の募集において「バスケットボール等のスポーツ選手又は指導者として全国的な大会に出場した経験を有する」人材の応募を求めています。 庁内横断的な組織としては、計画の見直し作業を進めるため、「バスケの街づくり庁内検討会議」を設置し、「関係課長及び担当者会議」を中心に庁内の検討を進めています。